



日本大学三島高等学校

同窓会会報

第 12 号

昭和58年 2月19日
静岡県三島市文教町 2
日大三島高校同窓会 発行

御挨拶

会長 高田 菊平



会員の皆様にはお変わりなく御活躍のこととおよろこび申し上げます。我が同窓会活動も皆様方の御協力によりまして、大過なく運営されておりますこと大変ありがたいと厚く御礼申し上げます。

さて、五十八年の年明けとなりました。経済状態は大変厳しい年と、新年のどの新聞を、又、テレビ、ニュース解説などを見聞しましても、予測しております。それぞれ会員の皆様におかれまして

は、これら荒波の中で、大いに頑張っていることと思います。又現実には、悩みも苦勞もさぞかしとあります。

私ごとではありますが、昨年は一つの転機にぶつかったのですが、その時からの忙しさの中で、何かと自分の心の中の支えとなっていたことがあったと、今ふりかえってみて思うことがあります。

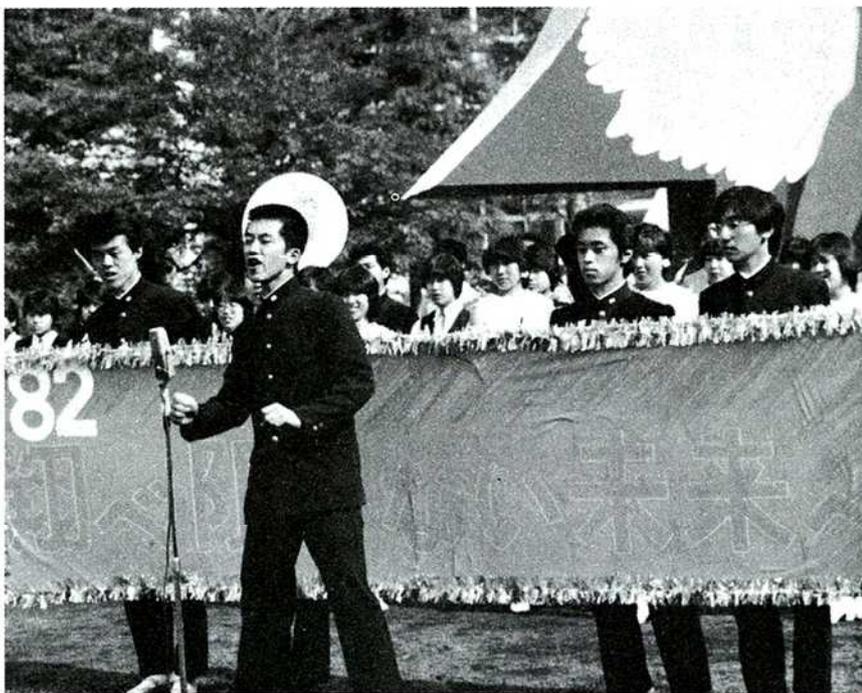
身近にいる友人の中で、日頃何かとおつきあいさせていただいています人達は、同窓生であるのですが、その彼らと会って、いろいろなことを話し合っていると、いつのまにか自分の心も休まり、苦勞もどこかへとんでいってしまったような気になってしまいます。又、彼らのひたむきな仕事に対する情

熱を感じとって、あらためて、自分自身もくじけずに頑張らねばと思うのです。

私は同窓会の活動にたずさわって以来、年と共にこの感を深くし、自分の心の中にしめる割合が増えてきているように感じるので、同窓会というものが、そういう点においても、大変精神的つながりの強いものであると思うのです。

会員の皆様、これから先厳しい世の中になればなるほど、同窓会活動というのには一面では、大変重要な位置づけがされてくるものと思えます。そういう意味におきましても、会員のひとりひとりがより多くの会員をさそい会い、同窓会の支部の活動や、種々の行事に参加されることを切にお願い申し上げます。そして同窓会をますます充実し、母校の発展と共に繁栄できますことを祈念いたします。御挨拶いたします。

(昭和五十八年一月十五日)



桜陵祭 テレビ中継風景

高田菊平氏の紹介

氏は、本校の第一期卒業生であり、昭和五十三年四月より、第三代目の会長としてその任を託されています。氏は現在、ニュー・デルタ工業株式会社の社長として、大変な活躍をしています。

また、氏の人としての温厚さと適確なる判断力は、同窓会をまとめる最大のエネルギーとなつていきます。同窓会の発展はまさに氏を中心とした信頼の中に育つているといえるでしょう。

(住所)
三島市西若町九の二三
電・七五・〇三七六

優越という報酬を

校長 北岡 功



昨年四月にもたれた総会の席で、高田会長からその一端が述べられた通り、皆さまの懸案になる「日本大学三島学園体育奨励会」結成への準備が着々進み、去る一月二十一日には大学と高校の同窓会共催による発起人総会がもたれ、いよいよその結成が認められるに至ったことにつき、まず以て心よりお礼申しあげる次第です。

従来の学力優秀生に対する奨学生制度に加え、このたびの皆さまのご厚意はその対象が多くの後進に向けられるという点で、大学生はもとより、本校生徒にとつてどれ程の刺激剤になることか測り知れないものがあることと欣んでいる一人であります。一日も早いその結成の日をお待ち申しあげております。

ハンマー投げの室伏重信（四期

生）君の快挙はご周知の通りですが、在校時代のあのきびしい生活規制と日々の練習での経験がどれだけ彼自身の挫折の危機を救ったことか今になって懐しく思いだされたと述懐していますが、このことは私も教師にとつての励みともなり、従来にも増した文武のきびしい体制への自信となったこととであります。私はあの三十八年頃、生活と生徒会の主任を勤めておりましたので「希望の森」誌に陸上部の全国制覇を祝して、「名声はあとからついてくる」という原稿を書いたことがあります。目の前の栄冠に目のくらむことなく、一歩一歩のマイペースの積みかさねの頂上にちゃんと栄冠は待っていてくれるものだと言ったことで手段を目的に置き換えるなどいうことを云いたかったのです。このことは皆さまの同窓会のあり方についても同じことがいえると思えます。愛校心と同窓の絆を目的とするインフォーマルな同窓会に對し、「同窓会はこの私に何を与えてくれるんだろう」という目の

前の報酬にのみ期待する限り、その行くえは暗澹たるものといえましょう。それもいいでしょう、しかしギブがあつて、テイクもあるものです。自力があつて、他力の本願があるものです。同窓会の一入として、何を果たし、何に貢献しようかと、まず自力の心を寄せて頂きたいものです。同窓会もひとつの人生の縮図です。苦しみがあり、喜びがあるものです。挫折をそつといたわつてくれるいくつもの優越の掌もあるものです。人間、棺を蓋うまで母国があり母校があるものです。長いながい同窓会の歩ゆみを心よりご期待申し上げます。

その意味において、このたびの皆さまの手になる「体育奨励会」は皆さまご自身のためにも同窓の絆の共感の足がかりともなり、また同時に私ども母校とのより近い連帯のよすがにもなるうかと欣んでいる所でありませう。

この三月に、皆さまの後進、第二十三期生、九九一名がめでたく卒業し、これで同窓生の数は二万四千九三二名になる筈です。よろしくご指導願います。優越に満ちた明日の新しい力を同窓会への貢献にふり当ててやって下さい。同窓会の歴史は皆さまの人生と共に歩む、未来そのものが目的なのですから。（五八・一・三〇）

副幹事長挨拶

再会と活力の場

藤幡 俊量



第二十三期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。私の卒業は第十一期生で、第一期生の諸先輩と皆様のちょうど中間にあたり、年齢もすでに三十路を超え、卒業後十余年になると思うと、大変感慨深く高校時代が懐かしくもある近頃です。私は高校時代応援団に所属していた関係で、新聞、テレビ等の報道で各種運動部の活躍を知る時、当時の気持ちにひたり自分の事のように嬉しくなります。また学術の方面でも同様な気も致しますが、こうした思いを現実の中で味わえるのは同窓会の場でもあります。私も及ばずながら幹事の一員として同窓会の活動に参加させて戴いておりますが、何よりも喜ばしい事は地域社会で目覚し

い活躍をしている諸先輩方や後輩にお会いできることと、直接行事に参画し運営することの楽しさもあります。同窓会を通じて多くの友人ができた事は私の財産でもあります。社会生活を過ごして行くには親しい仲間づくりが必要ですが、通常一朝一夕にはなかなかできるものではありませんが、同じ同窓生であるということだけで、他にない親密感を得、そして精神的にも自己の支えとなり、やがて年齢の上下に関係なく、互いに苦楽の相談ができるものです。皆さんは、学窓を育ちそれぞれの道を歩む事になる訳ですが、是非同窓会を再会の場、明日への活力を養う場としてお考えいただき、皆様と一緒に母校の発展興隆に寄与し、同窓会を益々充実発展させ、共に同世代を生き抜いて行きたいと考えております。

第十一期卒業

（住所）三島市大杜町七の三五

電・七二・二三九五

歓迎のことば

新時代へ

関口伸



第二十三期生の皆さん、卒業おめでとございます。この「卒業」という言葉を今日まで遠い事のよう

に感じていた皆さんにとって、これから改めて、三年間の高校生活を思い返すことでしょうか。

私は、たまたまテレビ局に勤めています。テレビはその誕生から今年、三十年を迎えました。そしてカラー放送になったのは、私の生まれた昭和三十四年、皆さんの生まれた昭和三十九年頃、およそ八割のテレビ番組が、カラー放送でした。カラーテレビ……そしてパソコン。この何もかもが揃った、いわゆる「便利時代」に生まれ育った皆さんにとって、これから生活する「社会」はたまたまツイチを入れるだけという訳にはいきません。今までの誰も言うように、いくつもの壁につきあたり、

皆その壁をつき破って行くのです。そんな時、自分の糧となるのは、

高校生活三年間で得た自信と知識——そしてもうひとつは、同じキャンパスで学んだ親友とのコミュニケーションです。三年間、共に笑い、共に泣いた友は、あなたの知らない、もう一人のあなたを知っています。

また、日大三島高校には、とてもしつかりとした同窓会という組織があります。「同窓会」という言葉は、あまりに古くさいイメージと、堅苦しいイメージがあり、思わず背を向けられる方もいらっしゃるでしょう。しかし、皆さんも今日からこの会の仲間入りをする訳ですから、単に、皆さんのプラスにつながるひとつの道具として利用して頂きたいと思えます。

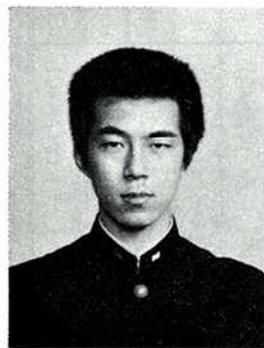
今は制服から解放される新しい生活への期待と不安ばかりだと思えますが、やがてその制服に自分の姿を見るようになった時、あなたはこの「日大三島」を必ず振りかえります。

テレビ岩手勤務
盛岡市茶畑二の二三の二〇

新入会員挨拶

「真理の探究」を目指して

第二十三期生 根本敬継



この度、私達五十七年度卒業生は第二十三期生として、同窓会に入会させて頂くことになりました。高校学業の課程を終了しこれから実社会に出ていく時には、本学在学中に身につけた多くの理念と実学を大いに役立てたいと思えます。その際には、いろいろな方面において先輩方との交流が生じること

と思います。今までの先輩方との交流と言えば、年齢層が狭く学校生活の中が殆んどでしたが、これからは社会の場において広く親密な交流をすることができると思えます。そして先輩方からの御指導、交流を深めていくことによつて、私達がこれから先の社会に接触した時に生じる不安、また私達の理念とことごとく相反する現象を少しでも緩和できるのではないかと思います。私達卒業生は、おのこの目指すところは異なつても、「真理の探究」に志を立てることは共通しています。そして、「真理の探究」は生涯かけて行うものだ

と思います。現在、各方面で活躍されている先輩方が歩んでいる真理の探究の道に、少しでも早く追いつけるよう努力していく次第です。

これから先私達は、自らの力で求め、自ら大いなる苦難を乗り越えて、時には道なき道を切り開いて進んでいかななくてはならないでしょう。そういった時に同窓会という集団で助け合つていきたいと思えます。助け合うとは言つても、まだまだ未熟な私達です。立派に社会に貢献し一人前になるまで、先輩方にアドバイスして頂くことと思えますが、名譽ある伝統に輝く本学出身者として、先輩方の期待に答えられるよう精一杯頑張りたいと思えます。どうか御指導のほどよろしくお願いします。

二十三期生クラス幹事

三の一	上杉俊也	三の七	千葉吉明	三の十三	神山清康
三の二	石川文俊	三の八	田口一郎	三A	佐藤裕子
三の三	嶋津文則	三の九	勝俣州和	三B	杉山明子
三の四	鈴木崇彦	三の十	山之内良司	三C	大川節子
三の五	萩野竜一	三の十一	佐々木輝	三D	内藤久子
三の六	高島淳	三の十二	鈴木薫	三E	中村幸代
				三F	山田多恵
				三G	白井朱音
				三H	梶原三奈

支部だより

血統

沼津支部長 高木弘之

新年明けましておめでとございます。同窓会に入会される新人の方々、入会おめでと。今、しばらくすると、ある者は大学に、ある者は専門学校に、又、ある者は就職とそれぞれ巣立ち、思い出の学園を後に人生航路につくわけですね。

現在、世の中は超L S I、ロボットの時代ですね。人間関係も、文化も、ともすると忘れ去ってしまっているのです。教育環境、時代の変化など、者を語れないほど急激に移り変わっている昨今にあっても、吾れ巣立った学校の校風、建学の精神は不変であります。変化ありとすればそれは異常なことです。同窓という、血統を踏みちぎることなのです。同窓生で教職にたずさわっている方々も頑張ってください。

私も、早や卒業して二十余年の月日がたっています。その社会生活において、何千人とでも云おうか、同窓生と数多くの席で一緒になっております。同じ教育を受けた同窓生として話もはずみませう。同窓生の中には市議員、町会議員と政治の世界にも、経済界の中にも、台頭して来ています。同窓生としての力をフルに各界において発揮できる時代がきました。社会の一員としての責任も各人、持たされてきているわけです。大人になった同窓会です。

五十八年一月一日記

各支部長一覽

支部名	氏名	住所	TEL
三島	久保田 光	駿東郡清水町柿田九	(0559) 711-1922
田方	野田 昭二朗	田方郡修善寺町柏久保六三三三四	(0558) 721-0277
沼津	高木 弘之	沼津市千本緑町三四一七	(0557) 631-4644
御殿場	武藤 康徳	御殿場市新橋一九七六	(0550) 211-2844
裾野	勝又 国佳	裾野市深良一五五一	(0559) 711-3922
富士	西村 雅幸	富士市松岡一三〇四一七	(0545) 611-5175
富士宮	秋山 一雅	富士宮市浅間町四一五	(0544) 261-3848
清水	久保田 容弘	庵原郡富士川町岩淵七八一三	(0545) 811-0888
静岡	松下 悟	島田市横井四一一二三	(0542) 451-8325
熱海	谷口 俊二	熱海市上多賀九二〇一	(0557) 681-4022
小田原	川口 功一	小田原市東町四一〇一	(0465) 341-0464

昭和五十七年度 事業報告

- 一、総会
 - 四月二十四日 於「三島プラザホテル」
 - 一、会長挨拶
 - 一、学校長挨拶
 - 一、議事
 - (1) 昭和五十六年度事業報告
 - (2) 昭和五十六年度決算報告
 - (3) 昭和五十七年度事業計画
 - (4) 昭和五十七年度予算
 - (5) 役員改選
 - (6) 工業科記念事業報告
- 二、懇親会
 - 一、四月五日 於「樺」
 - 総会の件
 - 納涼船の件
 - 二、四月二十日 於「樺」
 - 総会の原案の件
 - 納涼船の件
 - 三、七月十日 於「樺」
 - 体育奨励会の件
 - 納涼船の件
 - 四、十一月二十七日 於「樺」
 - 会報の件
 - 記念講演について
 - 五、一月十九日 於「樺」
 - 同窓会入会式の件
 - 体育奨励会の件
- 三、事業
 - 一、二月二十日 於 母校八号館
 - 同窓会入会式(二十二期生)
- 記念講演会
 - 「やればできる」
 - 京都大仙院 尾関宗園師
 - 工業科記念碑除幕式
 - 懇親会 八号館食堂
- 二、三月一日
 - 同窓会報(第十一号)発行
 - 三、二月十九日 於 母校八号館
 - 同窓会入会式(二十三期生)
 - 記念講演会
 - 「日本人の心の源流」
 - 教育評論家、道熟慶陽館 々主 境野勝悟氏
 - 四、三月一日
 - 同窓会報(第十二号)発行
 - 四、支部
 - 一、熱海支部
 - 四月一日 丸三食堂
 - 二、沼津支部
 - 二月十九日 沼津軒
 - 五、その他
 - 一、尾関宗園師と語る会
 - 二月十九日 沼津 夕佳亭
 - 二、忘年会
 - 十二月十五日 田代パレス
 - 三、事務局会 四回
 - 四、二期生同窓会
 - 五月二日 プラザホテル
 - 五、工業(電気)同窓会
 - 六、その他各クラス、各クラブ

母校部 活状況

〈剣道部〉

国民体育大会静岡県代表選手
 四條 貴昭
 第二十二回静岡県高校剣道選手権大会

団体男子の部 優勝
 最優秀選手賞 高崎 弘久
 五人抜賞 石井 正人



団体優勝記念

〈卓球部〉

団体 I・H県大会 第三位
 グブルス I・H県予選 第三位
 (全国大会出場)

鈴木 泰信・増田 幸宏
 シングルス 全日本卓球選手権県大会
 県新人戦県大会 優勝

〈テニス部〉

県新人戦学校対抗 一位
 村上 孝志・岩崎 修治

露木 伸彦・稲村 則康
 田中 寿明

県新人戦シングルス 一位
 村上 孝志

県新人戦グブルス 一位
 村上 孝志・岩崎 修治

〈スケート部〉

I・H県大会 第一位
 五百メートル 望月賢一朗
 千五百メートル 第一位
 五千メートル 第一位
 一万メートル 第一位

I・H県大会団体総合優勝 (十三連勝)
 国体冬季大会スピードスケート県予選会

五百メートル 第一位 望月賢一朗
 千五百メートル 第一位 三浦 嘉久
 五千メートル 第一位 三浦 嘉久

一万メートル 第一位 望月賢一朗
 第三位 鈴木 宏之
 第四位 鈴木 宏之

望月賢一朗・三浦嘉久・鈴木 宏之の三名は国体に出場
 〈水泳部〉
 県大会 第一位 羽根田匡弘
 二百メートル背泳 第一位

東海大会 第三位 小野寺和恵
 百メートル平泳 第三位

全国大会 第八位 土屋 主税
 二百メートル個人メドレー

国民体育大会

四百メートル個人メドレー 第五位 土屋 主税
 二百メートル背泳 第五位 羽根田匡弘
 百メートル平泳 第七位 小野寺和恵

県新人戦

百メートル背泳 第一位 羽根田匡弘
 百メートル平泳 第一位 小野寺和恵
 女子四百メートルメドレーリレー 第一位

女子四百メートルリレー 第一位

〈柔道部〉

女子総合優勝
 県スポーツ祭団体 第二位
 オール日大柔道大会 第三位

〈美術部〉

第十三回全国高等学校デザイン写真コンクール
 デザイン部門 学校賞
 デザイン部門 一席 栗田 陽子
 第十六回全国高校生ポスター・絵画写真コンクール 学校特別賞

絵画部門 佳作 鈴木 健
 第六十五回全国高校野球ポスター原画コンクール 優秀賞 智子
 佳作 山元 理恵
 木村美和子
 黒木 俊成

〈放送部〉

第二十九回NHK杯全国放送コンテスト全国大会 朗読部門 全国入賞 勝又 美江・杉山 暢江
 ラジオ番組自由部門全国入賞 『だって女の子だもん』

第二十回全国高等学校放送コンクール映像部門 全国入選 『ミリーちゃんの旅』
 第十二回高等学校ラジオ作品コンクール 努力賞 『僕らは今……』

〈写真部〉

第六回全国高校野球フォトコンテスト 特選 勝又 克治
 第十三回全国高等学校クリエイティブコンテスト 日本カメラ賞 第二席 勝又 克治
 第十六回全国高校生ポスター・絵画・写真・映画コンクール 佳作 渡辺 和彦

静岡県夏の高校野球フォトコンテスト 優秀賞 菊場 浩司
 第二回SBSラグビーフォトコンテスト 最優秀賞 白木 一宏
 第四回よみうり写真大賞 佳作 漆畑 丈史
 第一回朝日「作文・小論文・フォト&エッセイ」コンクール 学校奨励賞 全日本写真連盟賞 神尾 敏昭



前列左. 神尾君

日本大学三島学園 体育奨励会設立へ

この度、母校のおかれてある三島学園に、体育奨励会が設立するはこびとなりました。そのための発起人総会が今年の一月二十一日に三島学園八号館においてひらかれました。この会の設立に対しては、かねてから、校友会や同窓会を中心として要望の声が高かったもので、それがようやくのこと実現することになったわけです。

この会の目的は、言うまでもなく三島学園全体の各運動部の発展と活躍を支援するものであり、その大きな母胎となろうとするものです。

母校においても毎年インター・ハイ出場など、多くの優れた選手を送り出しています。ところが、今までは確とした支援母胎はなく、その選手たちの父兄を中心とした物心両面の援助に頼ってきたのが実状でした。

しかしながら、ますます多様化する教育の展望と激変する社会状況の中にあつて、強靱なる心身の錬成こそが、近代教育に求められている課題であることを考えた時、この会の設立は、今後の三島学園の教育的発展に大きく貢献するものと信じます。

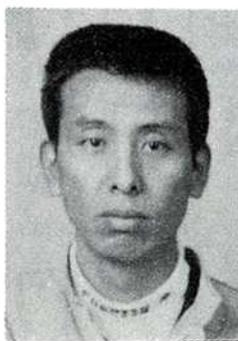
会長には、現日本大学三島同窓会会長の種房繁氏が、また副会長には、本同窓会会長の高田菊平氏が、その任にあたることになりました。

同窓各位の声援をお願いするしだいです。

活躍する仲間たち

自動車とともに

清水春男



○卒業 四十三年三月

○会社 東海日産モーター・下田

営業所・サービス係長

○自己ピーアール一言

人に物事を頼まれるといやと言えない性格。それでいて仕事ざらい。会社でいつも遊んでばかりいる不良？社員。新車を庫入される時はぜひとも。

鈴木啓太郎



○卒業 五十二年三月

○会社 稲取ホンダモーターズ

(自宅)

○自己ピーアール一言

現在、父と自分と従業員一人の、計三人で店の仕事をしています。年々、自動車整備もむずかしくなっていますが、遅れないよう頑張っています。こちらに來られた時などは、気軽に寄ってみてください。待っています。

鈴木孝彦



○卒業 五十三年三月

○会社 鈴木モーターズ(販売と修理)

賀茂郡河津町谷

津四一六

○自己ピーアール一言

三代目を継ぐことになり、毎日はりきってやっています。早くお客様とのつながりを深め、時代にマッチした経営をしたいと思っています。車の御用は是非……。日大生來たれ。

電気科の一年

工業科も廃止になり、早一年が過ぎようとしています。我々電気同窓会は、本年度も十月二日(土)本校八号館に於て、第十二回の総会を開きました。参加者は約百名、そして、森川、白井、後藤、平山、井出、戎谷の各先生方も出席して下さいまして、盛大な中に深く親睦を深めました。先輩、後輩が一同に会し、高校時代の話、会社での近況、そして恋人の話等々、実に楽しいひと時を過ごしました。参加した人々は異句同音にして

一年に一度お互いの近況を話し合うために、これからも続けて行くことを最後に誓い、この会を閉じました。

また、今年十一月二十八日(日)、日通富士見ランドのシートコースで親睦ゴルフ大会を開催しました。参加者は九名でしたが、十八ホールストロークプレーで優勝を争いました。当日は、やや寒かったのですが、珍プレーの連続で、これも楽しい一日でした。

(石橋勝好記)

事務局だより

▽同窓会の最大の事業といえは、先づは「名簿作成」であろう。本会としても第二十三期生を迎え、このことが急がれる状況にある。現在全員を収録したものはなく、比較的早い卒業年度において、期別に作成している状態である。しばらくは各期別に名簿を作成しその集大成として全体のものを作つてゆきたいと思ふ。

▽昭和三十三年四月、母校が創立。昭和三十六年三月にはじめて第一期卒業生を世に送った。そしてそれ以来二十三星霜、本年三月第二十三期生九九一名が卒業し、卒業生総数も二四、九三二名となり、母校の伝統を大きく感ずるものである。

▽本会は有為な個人や団体に對し、奨学金・奨励金を支給し、後輩

の育成をめざしております。過去において奨学金・奨励金ともに各一件ずつの支給がありましたが、本年度にはその対象者がなく見送られました。

▽会報も本号をもって第十二号となり、歴史を語るものといえるほどになりました。クラス会その他、同窓が集う機会にどうぞ御利用下さい。日時、部数等は事務局に請求して下さい。

▽母校の高校門近くに工業科廃止に伴つて、若きエンジニアの碑が建立されましたが、同時に工業科十九年の歩みをしるした記念誌が完成し、工業科卒業生に對し配布しております。数々の思い出を収録したものでありますので、どうぞ母校をたずねお受け取り下さい。当時の担任の先生方、同窓会事務局のいづれかへ結構です。また同窓の方々にもこの件をお知らせ下さい。

渡辺博夫 記



総 会

短 信

☆「納涼船」台風のため中止

毎年おこなっている沼津港からの納涼船が、昨年は残念ながら台風のためできませんでした。毎年家族ぐるみで楽しみにしていただく同窓生は、さぞかしがっかりしたことと思います。今年の夏に期待して下さい。

☆「熱海支部」のボウリング大会 毎年夏には何かの催しをしています。このごろは熱海後樂園でボウリング大会です。

☆「新生・沼津支部」

二月十九日に沼津軒において總會をひらきました。地域的なつながりを生活のエネルギーとして頑張ります。フレ!!

沼津。

参加すること

瀧口文昭



参加をしてみました。

この間、同窓会先輩後輩の皆さんとの交流、各支部の活動状況、学校側の対応と自分自身、極度のノンポリであったことを反省すること数回……沼津支部の総会をやろう。最初は三人から、それが二回、三回と準備会を重ねるごとに十人……二十人……三十人と輪が広がりが今では参加して良かった。と、参加することの喜びさえ感じます。

高校卒業以来（昭和四十一年三月卒）十七年、その間仕事の関係上学校にお邪魔することも何回となくあり、恩師の先生方からも顔を会わすたびに「元気でやっているか」「頑張っているか」と御心配やら、励ましの言葉をかけていただくことたびたび、「母校というものはいいものだなあ……俺はこの学校にきてつくづく良かったなあ」と思うこともたびたび。
そんな中で昨年四月、同窓会第六期代表幹事を仰せつかって早や一年近く、当初（いまでも）その任にあらず、俗にいう金もなければ暇もない、まして同窓会が何をやっているのか、何をするのか右も左も解からない、歌の文句じゃないけれどこんな私で良かったらと開きなあって

極度のノンポリだった私からのお願いです。まずいか、うまいか食べてみて下さい。まず第一歩を踏み出して参加して下さい。私事になりますが、昨年永年お世話になった代議士のもとより、市議会議員という場に踏みだしました。同窓会の活動はもとより政治の場、地域社会の場においても、今や我々の世代が考え、行動する時期がやってきたと強く感じます。共に考えましょう、共に頑張りましょう。積極的に参加をお願いするしだいです。
第六期卒業（沼津市議会議員）

仲間入り

心のふれあいを大切に

岩城隆之



私たちが昭和五十七年度卒業生一同は、第二十三期生として伝統ある同窓会に入会させていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。三年前、大講堂での入学式の感

動のさめやらぬうちに、何時のまにか三年の月日が流れました。歳月は人を持たずとか申しますが、本当にあつという間の高校時代でした。同窓会という言葉をしはしば耳にしましたが、それは、私たちを守りはぐくんでくださる母校をとりまく組織の一つとして、深い関心と敬意を表しつつも、はるか彼方の存在としてしか位置づけられておりました。それが二十三期生として、その組織のメンバーとし

よろしくお願いします

佐藤 広子



月日の流れというものは早いもので、何もわからずに入學式を終えたのが、つい昨日のことのように思われます。しかし私たちは、三年間という短い学園生活を終了し、いよいよ先輩方の仲間入りをさせていた

くことになりました。先輩方の仲間入りをするということはたいへん光栄に思っております。私たちは、一人ではかえることのできないうぐらいの大きな期待と共に、先輩のみなさまが待つていらつしやる輪の中へ入っていかなくてはなりません。高校時代の三年間では、何物にも代えることのできない多くのすばらしい友人を、得ることができました。しかしこれからは、年代の違う先輩のみなさまと人間関係を結ぶわけですから、

て、諸先輩のあたたかい御指導のもとに同窓会活動を推進する主体となつたのですから、感無量のものがあります。私は一科の生徒会長として一年あまり先生の御指導と多くの友人の支援のもとに、大過なくつとめさせていただきましたが、その間感じたことは、人と人とのふれあいがいかに大切か、組織の運営には人の和がいかに大事であるかということを感じました。私は同窓会のメンバーとなつてからも、この人と人とのふれあいを広くもち、母校日大三島高校のために尽くしたいと思っております。未熟な私たちではありますが、先輩諸兄の御指導と御声をお願い申し上げます。
大なり小なりの不安は持ちあわせております。しかし仲間入りをさせていただくことは、私たちの心の大きな支えになることと思っております。この先、社会へとびだしてゆく私たちに、とりましても、多方面に渡り御活躍をなさっている先輩方は、大きな目標でもあり、数多くのいろいろな事を教えてくださる先生でもあります。
私たちも同窓会員になる以上は、行事などに積極的に参加し、先輩方が苦勞して築きあげた伝統を、しっかりと後輩へ伝えてゆくつもりです。
先輩の皆様、まだまだ未熟な私たちですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会規約

第一章 総則

- 第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。
- 第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。
- 第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。
- 第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを目的とする。
- 第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。
 - 一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事
 - 二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加
 - 三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

- 第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。
 - 一、総会
 - 二、幹事会
 - 三、支部会
 - 四、事務局
 - 五、編集委員会

第一節 総会

- 第七条 総会は本会運営の最高決議機関である。総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。但し、必要により各支部を代表する支部長をもって、総会の決議にかえることができる。
- 第八条 総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。
- 第九条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項に関し、会長が認められた時、又は会員多数の要求があつた場合、会長は臨時に召集しなければならない。

- 第十条 幹事会の運営機関として左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。
 - 一、予算・決算に関する事
 - 二、事業計画に関する事
 - 三、会則の改廃に関する事
 - 四、その他、第五条によつて必要と認められた事項。
- 第十一条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があつた場合は、臨時に幹事会を召集しなければならない。
- 第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。
- 第十三条 幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

- 第十四条 幹事会には本会運営上、必要と認められた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。
- 第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。
- 第十六条 支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第四節 事務局

- 第十七条 事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。
- 第十八条 事務局は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第五節 編集委員会

- 第十九条 編集委員会は幹事会に所屬し、原則として年度一回の会報発行、その他、本会運営上、必要な広報の任にあたる。
- 第二十条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第三章 役員

- 第二十一条 本会は左記の役員を置く。
 - 会長一名 副会長一名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名
- 第二十二条 会長、副会長は、幹事会の推薦により、総会の決議をもって選出する。会長は本会を統理し、副会長はこれを補佐する。
- 第二十三条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。
- 第二十四条 副幹事長は幹事会を補佐する。
- 第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。
- 第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。
- 第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。
- 第二十八条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまざまない。

第四章 会計

- 第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。
- 第三十条 正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。
- 第三十一条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第五章 表彰・その他

- 第三十二条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。
- 第三十三条 会員として名誉を毀損する行為があつたときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。
- 第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

第六章 附則

- 第三十五条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。
- 第三十六条 制度施行 昭和三十六年三月十一日
- 改正施行 昭和四十七年四月一日
- 改正施行 昭和五十三年四月三十日

表彰規定

前文 本規定は日本大学三島高等学校同窓会規約第五章第三十二条に基づき、その適用細則を定めたものである。

第一条 本会々員にして、社会的に顕著な業績をあげた者に対し、所定の手続きを経て表彰することができる。

第二条 日本大学三島高等学校に在籍する者で、将来、国家社会に貢献し、母校及び本会の発展に寄与できる有為な人物及び団体に對し、奨学金又は奨励金を支給することができる。

(一) 奨学金の支給をうける者は、最終学年に在籍し、在籍期間中、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ有為な人物として学校長より推薦された者とする。ただし奨学金は一名を原則とする。奨励金の支給をうける団体は、生徒会所屬の団体で、顕著な業績をあげ更に一層の充実・発展が期待されるものとして、学校長より推薦された団体とする。ただし奨励金は一団体を原則とする。

(二) 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。

第三条 第一条、第二条の表彰式は、年度末とし、総会または入会式に行う。

付 本規定は昭和五十二年二月十二日より施行する。